

## コロナ禍のSSW・SCの活躍

～ 今こそ、子どもたちや保護者支援のために ～

今回のコロナ禍で、市教委には保護者さんはもちろん、一般市民の方からも電話やメールがたくさんきています。いくつか紹介します。「なぜ学校を休みにしないんですか。」「こんな緊急事態なのに、子どもを登校させていいんですか!」「もし感染したら、教育委員会は責任取ってくれるんか!」「うちは、感染が心配なんで学校休ませます。」などです。2学期が始まる1週間ぐらい前から連日このような状況でした。

そして、そのお一人おひとりに学校教育課の職員が寄りそい、まずはお話を十分に聞くことから行っています。その上で、子どもたちの学びを支援すること、さらには、医療や介護・福祉、警察や消防関係などのエッセンシャルワーカーをはじめ、さまざまな保護者さんを支援する社会インフラの一つである学校の重要性のお話もさせていただいています。中には1時間を超える電話もありました。各学校や園にもそうした話が来ているのではないのでしょうか。一方、文科省は昨年の一斉休校の「苦い経験」があるので、「休校措置は各教育委員会などの地域ごとに判断してください。」と言っています。地域による感染状況の差があるので、これは当然のことでしょう。

さて、学校にはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、また、オアシス相談員が配置されています。これらのみなさんは2学期のスタートと共に「大忙し」の状況です。(中には夏休み中も対応してくださった方もありました。)通常の相談だけでなく、このコロナ禍の厳しい状況下でフル稼働されていると聞いています。直接面談が難しい場合、学校によっては電話やメールで対応しているところもあるようです。

ただ、教職員のみなさんの中で、子どもたちや保護者さんのさまざまな相談事をどこにつないでよいものかと迷っておられる方がおられるらしいということで、ここで少し整理をさせていただきます。

この両者の決定的な違いは、SCやオアシス相談員は「心の専門家」として本人の心の持ちようを整理し、支援するのが仕事です。SSWは本人が抱える課題や問題を分析し、そのまわりの環境(家庭や仲間関係、地域など)に働きかけ、関係機関と調整しながら、環境改善を図るという役割です。ですから、当然のことですが家庭訪問もされ、保護者さんへの子育て支援の助言や場合によっては虐待防止研修などをされている方もあります。

今、学校には目に見えないウィルスにおびえている子、単身家庭で親が仕事や生活に追われている子、経済的に本当に厳しくなった家庭の子など、教職員が見ようとしなければ見えない背景をかかえた子どもがたくさん隠れています。

そうした子どもたちをSCやSSWと教職員が「ともに探り、見て、一緒にかかわる」ことができる、このコロナ禍はそうしたことができるチャンスでもあります。

臨機応変の活用を期待しています。